

住民自治検討会議（第1回） 報告

〔日 時〕平成29年8月31日（木）15:00～17:15

〔場 所〕市民交流プラザふくちやま3階 ギャラリー

〔出席者〕委員…12人、事務局…7人、傍聴者…8人

（別紙のとおり）

■あいさつ

- ・市長あいさつ

■委員及び事務局自己紹介

■委員長の選出

- ・委員からの立候補及び推薦がなかったため事務局より富野委員を推薦し、これを承諾いただいた。

■副委員長選出

- ・委員からの立候補及び推薦がなかったため富野委員長より松本委員を推薦いただき、これを承諾いただいた。

■議事

(1) 検討会議の趣旨説明及び本市の現状と課題

事務局から資料「これまでの取組みと住民自治検討会議の位置付け」、「福知山市の人口推計」、「高齢者統計（H29.7.31付）」に基づき説明

(2) 住民自治の全国的な動向と取組み事例

宗野委員より説明【概要】

- ・「地域自治組織」が全国的に多くのまちでつくられている、この流れは平成の合併から始まったと考えている。
- ・行政がこれまでやってきたことを地域にも担ってもらうため地域自治組織というものが必要となり多くのまちでつくられたが、新たに地域課題を整理しそれに対処するというところまでは難しいのが現状
- ・これからの課題としては、担い手をどう確保するか。地域活動に取り組んでいる人や取り組みたい人たち、女性や子どもも含めた地域の色々な人たちでしっかり議論することのできる場が求められているのではないか。

(3) 意見交換 各地域や組織における現状と課題について【委員意見抜粋】

- ・合併が一つの引き金になっているとの話には共感した。小学校の統廃合問題と重なる。小学校区は公民館活動や婦人会や地域の祭などがある一つの文化圏だといえる。小学校が統廃合により無くなることは、一つの文化が消えることなのではないか。
- ・担い手の話があったが、若手も声をかければ意外と動いてはくれる。
- ・今の3協議会のようなことをうちの地域でもやってくれといわれてもできるとは思えない。
- ・大江町も実際は旧村単位6区域ごとでのまとまりが強い。6区域が互いに補い合え

る関係にある。小学校区でまず協議会を立ち上げて、それらの連合として大江町全体がまとまる方が合っていたのかもしれない。

- ・三和では地域協議会が、バス交通の再編など事業を進められているのをみて、うらやましく思っている。それに、今後、要支援1・2の人を地域で守る、となると、やはり地域協議会のような組織が必要であることは分かる。
- ・しかし、中学校区で、となると広すぎる。小学校区が違えば住民の「気質」すら違うといっている。
- ・担い手が無い、というがそれはもしかしたらこちらが引き渡さないだけなのかもしれない。地域活動やっている人はいるが、それが今の地域の人考えに適合しないだけかもしれない。今後やはり地域にあった話し合いの場は必要だと感じる。
- ・福知山市では地区公民館の活動がしっかり行われており、それらが連携して中学校区単位の地域公民館活動が行われている。いきなり中学校区単位でなく、小学校区のまとまりがまずあって、それらをあわせて地域協議会となるならまだ可能だと考える。
- ・成和地域公民館でも、地域内の各地区公民館から4人ずつくらい人が出てくれる。まさに、この各地区公民館から来てくれる人材こそが「担い手」だと自分は認識している。
- ・この会議の進め方について、1回に1テーマで議論するのは無理があると思う。ある程度具体的な数字や色々なデータを示してもらい、テーマを絞ったほうがいいのではないかな。
- ・福祉に関しては、国の方針で要支援1・2の方を地域で支えることが示されている。福祉は待ったなしの状況であり、これが遅れるとまちはもたない。惇明地区では住民ニーズ把握や担い手の掘り起こしのための調査を実施したいと考えている。
- ・3つの協議会では、住民主体の地域福祉についての議論も交わされているようなので、ぜひそれらノウハウを学び、まち中でも進めていくべきと考えている。
- ・昭和地区では公民館がないため、ほとんどの活動を自治会が中心となって担っている。やはり公民館組織をつくりその中でも地域活動を進めていくことが求められている。
- ・夜久野では自治会役員のなり手が少なく、住民が10人以下の自治会も10数自治会あり、自治会組織自体が成り立たないような状況になっている。
- ・夜久野ではこれまで、上・中・下夜久野が一つになって包括的に考えることのできる仕組みがなかった。これからは、実行部隊として自治会の関わりが重要になってくる。今後は活動の周知と啓発に力を入れていこうと考えている。

■次回の日程

- ・9月下旬から10月中旬で調整し、決まり次第連絡する。